

## 野島断層における断層破砕帯の分布とその産状

### Distribution and occurrence of the fault rocks associated with the Nojima fault, Central Japan

中村 克<sup>1\*</sup>, 海田 華苗<sup>2</sup>, 草野 高志<sup>3</sup>, 村上 雅紀<sup>1</sup>, 内田 淳一<sup>4</sup>

NAKAMURA, Masaru<sup>1\*</sup>, Kanae KAIDA<sup>2</sup>, Takashi KUSANO-HONGO<sup>3</sup>, Masaki MURAKAMI<sup>1</sup>, Junichi UCHIDA<sup>4</sup>

<sup>1</sup> 応用地質株式会社, <sup>2</sup> 株式会社環境地質, <sup>3</sup> 株式会社蒜山地質年代学研究所, <sup>4</sup> 独立行政法人原子力安全基盤機構

<sup>1</sup>OYO Corporation, <sup>2</sup>Kankyo Chisitu Co., Ltd, <sup>3</sup>Hiruzen Institute for Geology & Chronology, <sup>4</sup>Japan Nuclear Energy Safety Organization

我々は、断層破砕物質を用いた断層の活動年代の評価手法を検討するため、1995年兵庫県南部地震に伴って活動した野島断層にほぼ沿って、断層露頭観察とピット調査を行った。その結果、ピット調査からは過去2回以上の断層活動が推定された。断層露頭観察からは、断層変位地形を形成している断層破砕帯の性状を記載することができた。そのうち、ピット調査の結果を以下に示す。

調査地は、兵庫県淡路市野島暮浦であり、栗田・水野(1998)により1995年兵庫県南部地震時の地表地震断層が確認されている場所である。分布する地質は、下位より、変質した花崗岩、これに断層で接する神戸層群の砂質シルト岩、腐植質シルト岩および砂岩、これら基盤岩を不整合に覆う8層の未固結堆積物、人工的な掘削土砂が分布する。これら堆積物から、炭素14年代測定用の試料を採取し測定を行った。

このピットには断層が4条認められ、走向傾斜がN30~60°E 60°W程度であり、幅1~20cm程度、灰・黄褐色の断層粘土を伴う。断層には、最下部の未固結堆積物にのみ変位をあたえるものと、最上部の未固結堆積物にまで変位を与えるものがあり、過去2回以上のイベントが解釈できる。

本発表では、このピットの炭素14年代測定結果、イベントの解釈を示すとともに、野島断層沿いの破砕帯の産状を示す予定である。

現地調査に際し、調査地点の地権者の方々、地元住民の方々、淡路氏市危機管理部危機管理課並びに兵庫県民部防災企画局防災計画課の方々には大変お世話になりました。以上の方々に、厚く御礼を申し上げます。

キーワード: 野島断層, 1995年兵庫県南部地震, 古地震イベント, 活断層, 破砕帯

Keywords: Nojima fault, the 1995 Hyogo-Ken Nanbu earthquake, Central Japan, paleoseismic event, active fault, fracture zone